

千判狸の呟き

～ 令和6年から7年へ ～

蒼 狸

令和7年はどのような年になるだろう。令和7年もこれまで以上に勉強しよう、やる気まんまん、新たな気持ちでいる。忙しくとも好きな事にさく時間は苦にならない。

2024年の思い出

スマホ女性

感染室での待ち時間、患者さんはスマホをチェックしていたと思われる。「今日はどうしましたか？」と問診すると、スマホをみながら、風邪症状につき説明を頂いた。患者さんは問診の間、スマホから一度も目を離さずお話された。その時、自分はかなり違和感を覚えた。が、しかし、そういえば自分もいつも電子カルテに目をむけたまま患者さんの話を入力している。スマホ女性と同じかもしれない。

予定医療機関が満杯

「いつも通院中の医療機関に予約が取れず、今日具合が悪いので初診で参りました。」[かかりつけ医療機関が休みだったので、定期薬が欲しくて参りました]と。事前にホームページで案内し張り紙等で周知しても漏れはでる。自院でも同様のケースがあるものと考えている。開業医は患者さんと1:1対応であり、24時間-365日対応は不可能であり致し方なしである。患者さんは自分ができることを行っている。医療機関はお互いに人知れず助け合っている。

QQ受診と紹介状

QQで「今日は痛み止めだけ出しておきますから、明日主治医から紹介状をもらってから来てください」と言われ、患者さんは紹介状作成を依頼される。日中は紹介状を作成する時間がとれず、夜時間外に作業する。24時間-365日対応は出来ない医療機関の穴をQQ外来が埋めて下さっている。QQに限らず、紹介状作成依頼だけに受診される患者さんも少なくない。大病院志向の患者さんの流れを止めるために導入された紹介率制度のため、開業医は文書作成に追われる。自分としては、ここに医療費と時間の浪費感があるが、ここでも人知れず医療機関の助け合いがあってシステムが何とか機能している。

薬剤師さんの説明

電子カルテのクリックミスで誤入力があった。「この薬はこう使います。」薬剤師さんは自院の事務スタッフに電話で説明する。スタッフはその内容を忠実に処方医に伝言する。処方医はD.I.を知っているので、スタッフからの詳細な説明を聞くと疲れる。

事務スタッフの仕事は保険査定の手でも、担当医の意欲をくじく仕事になることがあり、事務部門のスタッフは医師に対し神経を使っている。医師は、「その薬の事は知っている、、、」「患者さんのための計画なのになぜダメ？」と心の中で言っている。人間関係にひびが入る原因となる。お互いの立場に対しての思いやりが大切だ。薬剤師さんからの疑義問い合わせは、スタッフに電話で説くのではなく、スタッフに確認依頼だけにする方がいい。

総合病院との連携

昨年総合病院より依頼あり、患者さんは超高齢なので自宅で最期暮らしたい、かかりつけ医として往診+終末対応をお願いしたとのことだった。「依頼をお受けしますが、出張の予定がありその時の対応はできないのですが、」「どうしても対応できない時は救急車で送って頂き総合病院が受けます」との連携がなされました。その後かかりつけ医対応で責務を果たしたが、連携が自分にとってはとてもありがたいことだった。1:1、24時間-365日対応は時に穴があり、助け合いがあってお互いが救われる。

悩みの種

令和7年もマイナンバー、電子処方箋、種々のオンライン届出等、最近の医療システムの進展に対応を求められるだろう。PCやソフト利用が不得意な自分にとって、これらへの対応はややこしい作業であり、どうしても後回しになってしまう。毎日の診療は多忙であり診療時間内に、種々のメールを読み込む時間はない。行政文章や用語に不慣れであるため、自分は半分落ちこぼれているにちがいない。大きな病院では担当者を決めて対応するところを、開業医は自分一人で解決する以外に方法はない。医師会にて会員の希望をとり、有料でかまわないので、担当を派遣する等の医師会員のための医療システム支援事業を行って欲しい。

まとめ

新年を迎えても、時間が無い、保険診療の不可解なルール、書類作成の山、ストレスの基は常にある。疲れ、空腹、長時間労働等、産業医の勉強で労働者がなぜストレスを感じるか学んだが、自分にも当てはまる。解決の手段は、医療機関間の助け合い、職員同士の気使い等であろう。そして令和7年も何とかクリアできるだろう。令和7年が私たちのメンタルフネスが試される年であっても、、、